■北条氏綱 戦国大名。北条早雲の嫡男で、領国を武蔵、下総、駿河方面に拡大し、'勝って兜の緒を締めよ'と遺言した。

ほうじょううじつな

・ ・ ・ ・ ・ 1487= 京都で、将軍足利義尚の申次衆になっていた伊勢宗瑞(盛時・北条早雲)の嫡男に生まれる。母は宗瑞の正室で幕府奉公衆小笠原政清の娘南陽院。幼名は伊豆千代丸。

足利義政没・1490= 3歳：

明応の政変・1493= 6歳：父宗瑞が伊豆に進出し、

早雲小田原城1495= 8歳：父宗瑞が小田原城を抑える。

・ ・ ・ ・ ・ 1496= 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1498=11歳：父宗瑞が伊豆韮山で国主の地位を確立。
元服後には父と同じ通称である新九郎を称し、父宗瑞の薫陶を受けるとともに、民を重んじる城下の整備や領国支配体制の基礎固めをするのを見て育ち、

・ ・ ・ ・ ・ 1505=18歳：
父宗瑞が相模国に侵攻するにあたり、

早雲相模攻落1512=25歳：宗瑞の後継者として活動し、相模国小田原城に在番していたと推定されるのが、文書上の初見。
執権北条氏の末裔横井氏の娘を正室に迎え(養珠院)、

・ ・ ・ ・ ・ 1514=27歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1515=28歳：嫡男氏康が誕生。

大内対明貿易1516=29歳：父宗瑞に従い、相模国を征服。

義興周防掃国1518=31歳：***父宗瑞の隠居により家督を継ぎ、代替わり検地を実施し、この年に父が創始した虎の印判を用いて安堵状を発給、以後、朱印状のない徴収命令は無効とし、郡代・代官による百姓・職人への違法な搾取を抑止する体制を整えることで、直接支配を確立して行く。**

・ ・ ・ ・ ・ 1519=32歳：父宗瑞が死去して、名実共に伊勢(後北条)氏の当主になり、伊豆韮山の城は継がず、自分が在番していた相模の小田原城を居城にし、

足利義晴将軍1521=34歳：父宗瑞の遺言により、箱根湯本に菩提寺早雲寺を整備し、大徳寺の以天宗清を住持に迎え、以後、早雲寺は大徳寺への有力な修行の場になって行く。

寧波の乱・ ・ 1523=36歳：この年までに、武蔵国西部・南部の国人を服属させる。***箱根三所大権現の再建にあたり、棟札に"相州太守"と記して、相模の支配者を主張するなど、領国支配を正当化するために自らを関東とゆかりの深い執権北条氏の後継者たらしんとする父宗瑞の遺志を汲んで、名字を伊勢氏から北条氏へと改め、後北条氏と呼ばれることになる。改称は、朝廷に願い出て正式に認められたものらしく、扇谷・山内両上杉家への敵対表明でもあって、危機感を持った扇谷上杉朝興は山内上杉家と和睦をして対抗に乗り出し、**

・ ・ ・ ・ ・ 1524=37歳：武蔵に攻め込んで扇谷勢を撃破すると、太田資高を寝返らせて江戸城を攻略。太田資頼の寝返りで、岩付城を落し、敵の松山城～河越城間の遮断にも成功するが、朝興は山内上杉憲房の支援を受けて態勢を立て直し、甲斐守護武田信虎とも結んで反撃、太田資頼が朝興に帰参して、和睦せざるを得なくなり、

・ ・ ・ ・ ・ 1525=38歳：朝興が、宗瑞時代には後北条氏と友好関係にあった上総国の真里谷武田氏、小弓公方そして安房国の里見氏とも手を結んで包囲網を形成したため、四面楚歌に陥り、

以後管領不在1526=39歳：里見氏の軍勢が鎌倉を襲撃し、支配の象徴たる鎌倉鶴岡八幡宮も戦火で焼失。

・ ・ ・ ・ ・ 1529=42歳：執権北条氏に倣うように、左京大夫に任じられ、家格の面でも今川氏や武田氏、上杉氏と並ぶ。
遣明船復活・1530=43歳：小田原城下の津田藤兵衛に発した藍瓶銭(藍染業者への賦課金)の徴収を許す虎の印判状が現存している。嫡男氏康が朝興方の軍勢と多摩川河原の小沢原で戦い、これに大勝したものの、

天王寺合戦・1531=44歳：朝興に岩付城を奪回される。

大和一向一揆1532=45歳：***東国武家政権の政治的後継者たらしんと、鶴岡八幡宮再建事業を主導すべく、**

・ ・ ・ ・ ・ 1533=46歳：**工事に着手、関東の諸領主に奉加を求めたが、両上杉氏はこれを拒否するなどするうち、里見氏で内訌が起き、包囲網から脱落、小弓公方を擁立する真里谷武田氏でも内紛が起き、勢力が弱まることになり、**

・ ・ ・ ・ ・ 1535=48歳：父宗瑞の代より形式的には主従関係にあった今川家当主氏輝の要請に応じて都留郡に出陣し、山中の戦いにおいて武田信虎の弟信友を討ち取る大勝を収めるものの、

天文法華の乱1536=49歳：嫡男氏康と今川氏輝の妹瑞深院との婚姻が成立した直後に、氏輝が急死、家督を巡ってお家騒動が起こり、
・ ・ ・ ・ ・ 1537=50歳：義元は信虎の娘定恵院を娶って甲斐同盟を成立させたため、激怒して相駿同盟が破綻し、今川との抗争が勃発。今川氏との主従関係を完全に解消して独立を果たした。朝興が死去すると、武蔵に出陣して扇谷上杉家の本拠河越城を陥れ、三男の為昌を城代に置き、

銀輪出始・ ・ 1538=51歳：伊豆と相模の皮作(皮革を加工する職人階層)に触頭を置き、武器製作に不可欠な皮作を掌握。**房総への足がかりを築こうと、葛西城を攻略、河越城の陥落に危機感を抱いた小弓公方足利義明が扇谷上杉家へ援軍を派遣して全面的に対立するが、古河公方足利晴氏から"小弓御退治"を命じられて大勝、義明を討ち取り、勢力拡大に成功。古河公方を奉ずることで、東国の伝統勢力に対抗する政治的地位を得るに至る。**

・ ・ ・ ・ ・ 1539=52歳：娘(芳春院)を晴氏に嫁がせて、足利氏の"御一家"の身分も与えられる。

・ ・ ・ ・ ・ 1540=53歳：**鶴岡八幡宮の上宮正殿が完成して、盛大な落慶式を行い、**

扇谷上杉朝定が、山内上杉憲政と手を結び、今川軍との戦いも長期化するなか、

武田信玄登場1541=54歳：病に倒れ、***嫡男の氏康に「五か条の訓戒状」を伝えて、没した。**